

(様式 1 - 表)

令和 8 年度 特色ある学校づくり推進事業 計画書

学校番号	66	豊田市立 明和小 学校	代表	宇井 一弘
------	----	-------------	----	-------

※分野【a：国際交流・国際理解、b：地域連携、c：自然体験、d：環境教育、e：学力向上、f：交流体験、g：福祉・ボランティア、h：伝統文化、i：その他（ ）】から選ぶ。

テーマ	ふるさとに学び、心豊かに生きる「WE LOVE 明和」	分野	b	地域連携
	サブテーマ 明和のよさに気づき伝えよう	(その他)は分野を右欄に記入		
学校づくりの視点（ねらい）	・自分たちが住んでいる地域に目を向ける活動を通して、地域の「ひと・もの・こと」とふれあい、身近な環境「ふるさと明和」と自分たちとのつながりや「ふるさと明和」のよさを知るとともに、ふるさとに愛着をもつ子どもを育てる。 ・地域講師招聘による全校和太鼓活動や栽培活動などを通して、地域の方が学校に寄せる思いを知り、情意面での充実を図る。 ・心の相談員による相談活動を通して、悩みや困りごとの早期発見、早期解決に努め、安心安全な学校づくりをする。 ・校内整備員による環境整備を通して、教育活動を行うために安全で快適な環境を整える。			
活動内容・計画	・地域講師による指導を受けながら、野菜やブルーベリーの栽培活動を進めるとともに地域への情報発信を行う。（4月～2月） ・社会科や理科、生活科、総合的な学習の時間と関連させ、自然環境を保護する活動や住みよい暮らしについて考える。（5月～2月） ・学校周辺や身近な自然環境の中で学ぶことを通して、ふるさと明和の現状を知り、今後の発展を考え、広く発信していく。（5月～2月） ・地域講師による指導を受けながら、全校和太鼓活動に取り組み、初釜の会で積極的に発表する。（5月～1月） ・定期的な教育相談や日常的な教育相談において、心の相談員の活用を図る。（4月～3月） ・教育環境の充実において、校内整備員の活用を図る。（4月～3月）			
補助員配置	・心の相談員 ・校内整備員			
実績・期待される効果	・地域のひと・もの・ことを知ることで、地域の方々が「ふるさと明和」を大切にしていることに気づき、学校や自分たちにとのつながりを感じることができた。 ・低学年は、地域講師に教えていただきながら栽培活動を行い、作物を育てる大変さとやりがいを感じた。また、栽培した作物を使って、梅ジャムや梅ゼリー、サツマイモ料理（サツマイモスティック・サツマイモと肉炒め）を作って味わったり、全校に振舞ったりして収穫の喜びを感じ取った。 ・中学年は、これまで行ってきたブルーベリー栽培を受け継ぎ、地域講師から世話の仕方やネット張り方、剪定の仕方などを体験的に教わりながら活動した。収穫したブルーベリーでジャムを作って味わったり、全校児童に振舞ったりした。 ・中学年は福祉の学習も行った。高齢者や障がいのある方の生活について調べたり、ボッチャ体験や高齢者疑似体験を行ったりして、苦労や不便を体験的に学び捉えた。また、高齢者との交流会を計画し、施設を訪問して交流会を実施した。こうした学習から、互いの違いを理解し、相手を思いやる気持ちと行動が大切であることを学ぶことができた。 ・高学年は、地域の森林の現状について調べ、現場に出向いて様子を観察したり森林の保全に携わる方から話を聞いたりした。そして、間伐を実際に体験することで、山林の維持保全の大切さを感じ取った。学んだことや自分たちができることをまとめ、ポスターを作って足助市街の事業所を回り、掲示していただくことで、情報を発信した。 ・低・中・高学年ともに、学習のまとめの発表会を実施し、そこにお世話になった方を招待し、思いを色紙にして感謝の意を伝えることができた。これらの活動を通し、携わってくださった方々の温かさを感じ、自分たちが支えられていることをありがたい思いとして捉えるようになった。また、地域と学校がさらに近づき、互いに協力して活動することができている。 ・継続的な図書館司書や図書ボランティアによる読み聞かせ、和太鼓活動を通して、豊かな感性を育むことができた。特に、和太鼓活動は、明和太鼓として17年間続いており、子どもたちは、伝統を受け継いでいることに誇りをもち、胸を張って練習に励み、成果を披露している。 ・心の相談員に子どもたちの様子を見たり話を聴いたりしていただくことで、子どもたちが安心して生活できる一助となった。 ・学校だよりや学級通信、ホームページなどで、取組の様子や成果、活動への参加の呼びかけなどを発信することで、本事業への理解をいただいている。保護者による学校評価では、特色ある学校づくりの項目では、R4年度から一年毎に、0.3ポイント、0.1ポイント、0.4ポイントと上昇している。 ・学校運営協議会でも学校づくりの視点と活動内容等を伝え、協力していただいている。そして、「地域を学ぶことはとてもよいこと」「本事業は地域のコミュニティとしての学校の役割をより強固なものにしている」「これからもぜひ続けてほしい」という声をいただいている。また、保護者アンケートからは本事業に対し8割以上の賛同を得ている。 ・子どもたちが、ふるさとに明和に学び、そのよさに気づき、そのよさを伝えながら、心豊かに生きることを期待する。			
検証方法	・活動時や活動後の児童の様子から、児童の「ふるさと明和」についての思いをつかむ。（発言・作品・記録・つづき・表情等から） ・活動への参加の呼びかけ、取組の様子や成果などを積極的に発信する。（HP更新随時、学校だより月1回、学級通信隔週1回、保護者会年1回、PTA役員会年4回、学校運営協議会年6回） ・学校評価保護者アンケート結果と保護者の声を発信する。（3月）			